

毎日フォーラム

政策情報誌

特集

離島振興

霞が関人物録 島根県

日本の選択 4月



日本の近代建築

佐賀県唐津市
旧唐津銀行本店

壬生照玄・長野県高森町長

まちづくりは「人」づくりから 信州たかもり熱中小学校開校



●みぶ・しょうげん

1970年生まれ。大東文化大文学部卒。94年高森町役場。町教委事務局長、経営企画課長などを経て2018年1月町長。現在2期目。

◎長野県高森町

県南部で南アルプスを眺める天竜川の河岸段丘にある。人口約1万3000人。干し柿の高級ブランド「市田柿」発祥の地。「なりたい『あなた』に会えるまち」を将来像に掲げる。

天台宗の開祖、伝教大師最澄は、「山家学生式」の中で「国宝とは何物ぞ、宝とは道心なり。道心ある人を名づけて国宝と為す。（中略）一隅を照らす、此れ則ち国宝なり」と言っています。宝とは、道を修めようとする心であり、この道心を持つている「人」が国の宝。社会の一隅にいながら社会全

体を照らす行動をする「そうした人こそなくてはならない国の宝」である、という意味です。
高森町出身の明治大学野球部監督、故・島岡吉郎氏は学生に対し「ここはプロの養成所じゃない。社会に人を供給する場だ」と檄を飛ばし、野球を通じ「人間力」を培う人材育成を実践し、数々の伝

説を残しています。
私の公約は、地域の宝である「人」に目を向け、社会貢献や地域の思いの実現に向けて行動する人財を育てることです。残念なことに現代社会では、自分に「利」を向け、地域への「責任」や「負担」を忘れてしまっている方も増えています。社会や地域のために

行動できる「人財育成」こそが、時間がかかっても地方創生の近道ではないでしょうか。
高森町では、2018年4月全国連携の社会人学校として「信州たかもり熱中小学校」（長野県校）を開校し、「もう一度7歳の目で世界を…」を合言葉に、県内各地からの参加者とともに、「人」のあ

るべき姿ととるべき行動を日本全国の実践事例から学んでいます。少しづつ県内各地で地域課題の解決や魅力を生かす取り組みにつながってきています。
また、次世代育成にも力を注ぎ、小学5年生から中学3年生までの5年間で、学び⇄提案⇄実践をサイクルとしたキャリア教育を行っ

ています。節目となる小6、中2で町長に提案する「みらい懇談会」を開催し、最終学年の中3では提案した内容を自分たちで実践しています。これを子どもたちの一つの成功体験に導くよう、町民、地元企業、町職員が全力でサポートしています。
この取り組みを始めて4年が経過し、徐々に協力してくださる皆さまも増え、その輪が広がっていると手応えを感じています。そして、まちづくりの主役は、やはり町民の皆さまであると実感しています。私は、職員に対し「町がプレーヤーになるのではなく、やる気のある人材を発掘し活躍していただくためのマネジャーになれ」と指示しています。町予算や職員の行動力で実行する方がスピード感もあり、評価をいただくことも多いかもしれません。裏方に回るといことは、時間もエネルギーも費やします。しかし、まちづくりを行政の責任にしない住民が育つと行政運営の考え方もそのものが変わると思いませんか。

こうした「人財育成」の取り組みが多くの人に共感いただき、活動の輪がさらに広がることを願っています。